

〈2〉— 阿南中央医療センター(仮称)の「基本計画」まとめ —

徳島県厚生農業協同組合連合会(JA徳島厚生連)及び阿南市医師会は、阿南共栄病院と阿南医師会中央病院を統合し、JA徳島厚生連が運営主体となる新たな医療施設「阿南中央医療センター(仮称)」の平成29年度内の開院に向けて協議しています。

この度、医療センターの「基本理念・基本方針」をはじめ、主要機能、診療科目、病床規模、外来や入院・救急部門など25の部門別機能と規模、さらには、施設整備計画などを明記した「阿南中央医療センター(仮称)基本計画書」を策定しました。

「基本計画」の策定に当たっては、JA徳島厚生連、医師会及び本市の三者で構成する「医療センター設立委員会」や、設立委員会に諮る事項を事前協議するための「作業部会」をはじめ、両病院の医師や職員も参画し、効率的・効果的かつ詳細な協議をするために設置した「事業部」「診療部」「施設整備部」「地域連携部」の4つのプロジェクトにおいて協議・検討を重ねてきました。

今回は、「基本計画」の概要についてお知らせします。



徳島大学病院長に説明



徳島大学医学部長に説明



徳島県知事に新病院の「基本計画」を説明(2月3日)

第1 基本理念・基本方針

阿南共栄病院・阿南医師会中央病院の現行の「基本理念・基本方針」にこだわらず、新しい病院・市民病院的な病院づくりの観点から決めています。

1 基本理念

地域住民の健康な生活を守ること
に専念し、信頼される医療に最善を
尽くします。

2 基本方針

- ① 阿南市及びその周辺地域における中核医療センターとして、病診連携、病病連携のもとに地域医療に貢献する。
- ② 阿南市及びその周辺地域における救急医療の中心的役割をはたす。
- ③ 災害拠点病院として災害時に県南地域住民の安全確保に寄与する。
- ④ 阿南市及びその周辺地域での包括医療を行うために、円滑な医療と介護の連携を図る。
- ⑤ 医師教育認定病院として、徳島大学の協力のもと医療の充実と医師の研修を図る。
- ⑥ 安心して暮らせるための健康管理、情報の提供を行う。

【注釈】
病診連携、病病連携 核となる病院と地域の診療所・病院が行う連携のこと。
災害拠点病院 災害時などの多数の傷病者が発生する際に、重篤な救急患者に対する救命医療を行う病院。
包括医療 治療だけでなく健康づくり、在宅ケア、リハビリテーション、福祉・介護サービスなどのすべてを視野に入れた医療。
医師教育認定病院 医師認定医制度による教育病院基準を満たした病院。

第2 主要機能

新病院は、9つの主要機能を柱としています。(要約して掲載)

1. 地域医療支援

地域医療支援病院として急性期医療を中心に、阿南市医師会会員診療施設との連携を密にして、地域医療ネットワークを構築する。

2. 救急医療

阿南市医師会及び高次救急医療機関との適切な役割分担と連携のもと、二次救急医療体制の充実を図り、24時間365日体制で入院治療を要する患者等の受け入れに努める。

3. 災害医療

自然災害・大規模事故災害・新興感染症の流行などにも機能を発揮し、迅速に対応できるよう、災害拠点病院としての施設整備(ヘリポート、トリアージスペース、ライフライン等)の確保に努めるとともに、災害

時における救急患者の受け入れ体制の充実を図る。

また、災害派遣医療チーム(DMAT)を充実するなど、広域的な災害救急医療体制を整備する。

4. がん医療

地域がん診療連携推進病院としての機能の確保に努めるとともに、外科的治療法に加え、外来化学療法法の体制を強化する。また、乳がんに関しては、診療体制の充実を図る。

さらに、県南部地域で初となる緩和ケア病棟を設置する。

5. 周産期医療

阿南市内唯一の分娩施設として、県南部地域における産科医療提供体制を堅持する。

6. 小児医療

高次救急医療機関との連携により、小児救急医療体制の確保に努めるとともに、夜尿症外来や発達障がい児への言語療法など特色のある医療を充実する。

7. 教育研修

臨床研修指定病院として機能の維持・向上に努めるとともに、関係医療機関と連携した特色あるプログラムを提供し、指導体制の充実を図る。

また、徳島大学と連携して、阿南市及び県南部地域における糖尿病治療ならびに慢性(閉塞性)呼吸器疾患の治療の充実・強化を図る。

8. 健康管理・検診

阿南市と連携して、人間ドックや

脳ドックなど各種検診事業を通じて、生活習慣改善のための指導を行う。

教育入院による血糖コントロールや、眼科・外科・皮膚科との連携での合併症管理、糖尿病教室の開催など、全身包括的な糖尿病診療を行う。

9. 円滑な医療と介護の連携

集中的なりハビリテーションを実施し、早期の回復と在宅復帰を目指す。高齢者が安心して在宅医療ができるよう、24時間体制の訪問看護や訪問リハビリの充実に取り組みなど、地域完結型医療を目指す。

また、「関節リウマチセンター(仮称)」の開設を検討する。

【注釈】
地域医療支援病院 第一線の地域医療を担う「かかりつけ医」等を支援する能力を備え、地域医療の確保を図る病院として相応しい構造等を有する病院。都道府県知事が承認をする。
二次救急医療体制 入院を要する救急医療体制を整えた医療機関。都道府県が作成する医療計画に基づいて整備を進めるもの。
トリアージスペース 大事故や大規模災害時に多数の傷病者が出てくるために、容態や緊急度に応じて優先順位を判断するために確保するスペース。
災害派遣医療チーム(DMAT) 災害の急性期(概ね48時間以内)に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム。
地域がん診療連携推進病院 徳島県独自の基準により指定され、手術療法や化学療法及び患者への相談窓口の提供を行っている病院。
周産期 妊娠22週から生後満7日未満までの期間。
臨床研修指定病院 研修医が卒業後2年間、基本的な手技・知識(初期研修)を身につけるために籍を置く病院。

第3 施設整備の基本方針

- 新病院は、4つの基本方針に基づいて整備を進めていきます。
- 1. 災害に強い施設**
地震や津波、台風をはじめ、災害に強い病院づくりを目指す。
 - 2. 快適な療養環境の整備**
特に、高齢者や障がい者に配慮した安全で安心な施設とし、誰もが利用しやすい施設づくりを目指す。
 - 3. 効率的で働きやすい施設**
働きやすく魅力ある職場環境づくりに配慮するとともに、診療・供給・管理などの各部門を合理的にまとめ、効率性の高い施設とする。
 - 4. 既存施設の有効活用等**
阿南医師会中央病院の既存棟を最大限有効活用することにより経費の節減を図るとともに、地域住民に開かれた施設とする。

第4 診療科目

阿南共栄病院と阿南医師会中央病院における既存の診療科目を再編・統合するとともに新設の診療科も整備し、29の診療科目(表1)を計画しています。

4. 緩和ケア病棟

初期の段階からがんによる痛みや精神的苦痛を和らげ、住みなれた地域でその人らしい生活が送れるような緩和治療を行う病棟を整備する。

5. 療養病棟

慢性的な病気を抱える高齢者の増加や、地域に長期療養の機能を有した療養施設が不足していることから、地域の強い要望を踏まえた療養病棟を整備する。

【注釈】
地域包括ケアシステム 地域住民に対して医療サービス及び在宅ケア、リハビリ等の介護サービスを、ニーズに応じて体系的に提供する仕組み。

病床区分	病床数	備考
一般病棟(急性期)	263床	
回復期リハビリテーション病棟	40床	「回復期リハビリテーション病棟II」を想定
地域包括ケア病棟	30床	
緩和ケア病棟	15床	
療養病棟	50床	「医療型」については検討する
合計	398床	

※1は新設の診療科、※2は院内標榜の診療科

阿南共栄病院	阿南医師会中央病院	新病院	
内科	内科	総合内科	※1
糖尿病内科・代謝内科	糖尿病内科	糖尿病・代謝内科	※2
		神経内科	※2
		漢方内科	※2
		リウマチ科	※2
		血液内科	※2
消化器内科	消化器内科	消化器内科	
循環器内科	循環器内科	循環器内科	
		呼吸器内科	※1
小児科		小児科	
外科	外科	外科	
消化器外科	消化器外科	消化器外科	
肛門外科		肛門外科	
	乳腺外科	乳腺(甲状腺)外科	
	呼吸器外科	呼吸器外科	
	心臓血管外科		
脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科	
整形外科	整形外科	整形外科	
産婦人科	婦人科	産婦人科	
耳鼻咽喉科		耳鼻咽喉科	
眼科		眼科	
皮膚科		皮膚科	
形成外科		形成外科	
泌尿器科	泌尿器科	泌尿器科	
放射線科	放射線科	放射線科	
麻酔科	麻酔科	麻酔科 (麻酔集中治療科)	
リハビリテーション科	リハビリテーション科	リハビリテーション科	
	病理診断科	病理診断科	
		緩和ケア科	※1
		外来化学療法科	※2

院内標榜の診療科 医療法施行令には規定されていないが、患者の受診しやすさを考慮して細分化された「専門診療科」のこと。

第5 病床規模

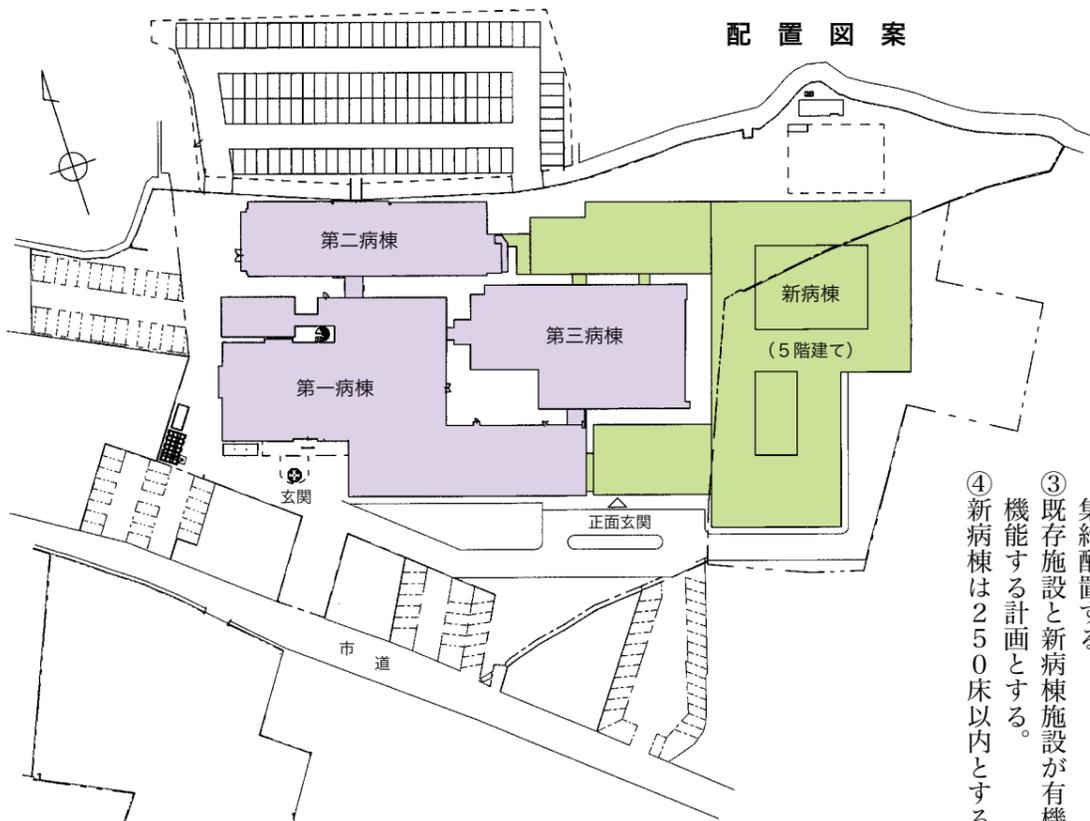
新病院の診療科目や将来の入院患者数などを推計しながら、病床規模を計画しています。

- 1. 一般病棟(急性期)**
阿南市及びその周辺地域における急性期医療を担う拠点として、必要な病床を整備する。
- 2. 回復期リハビリテーション病棟**
高齢者の患者に対して、住みなれた地域で生活し続けることを可能にするために、QOL(生活の質)の向上を目的としたリハビリを集中的に行う回復期リハビリテーション病棟を整備する。
- 3. 地域包括ケア病棟**
急性期後の受け入れ、患者の在宅復帰支援等の機能を有し、地域包括ケアシステムを支える役割を担う地域包括ケア病棟を整備する。

第6 施設整備計画

基本方針

- ① 既存施設を有効に活用する。
- ② 新病棟には「急性期医療」「急性期入院施設」に必要な部門を集約配置する。
- ③ 既存施設と新病棟施設が有機的に機能する計画とする。
- ④ 新病棟は250床以内とする。



色の部分が既存施設、色の部分が新病棟

第7 今後のスケジュール

「基本計画」策定後は、JA徳島厚生連において基本設計に取り掛かります。また、「基本設計」及び「実施設計」を経て、既存の阿南医師会中央病院の東側に新病棟の建設を開始するとともに、現在の阿南医師会中央病院棟の改修工事を行います。

さらに、ハードの整備と並行して、新病院の「運営システム計画」や「情報システム計画」、「医療機器備品整備計画」などのソフト面の計画を策定していきます。

平成26〜27年度 基本設計・実施設計
平成28年度 建設工事着工
平成29年度 建設工事竣工

シリーズ(3)は、阿南中央医療センター(仮称)の設計ができましたら紹介します。

